

相談における談話構造：修辞機能と脱文脈化の観点からの分析

著者	田中 弥生
雑誌名	言語資源活用ワークショップ発表論文集
巻	1
ページ	69-78
発行年	2017
URL	http://doi.org/10.15084/00001459

相談における談話構造 —修辞機能と脱文脈化の観点からの分析—

田中 弥生 (国立国語研究所 音声言語研究領域 / 東京大学大学院 総合文化研究科) †

Discourse Structure in Consulting: in Terms of Rhetorical Functions and the Degree of De-contextualisation

Yayoi Tanaka (National Institute for Japanese Language and Linguistics / The University of Tokyo)

要旨

本発表は、選択体系機能言語理論における談話分析手法の一つである修辞ユニット分析 (Rhetorical Unit Analysis) によって、相談談話の構造を分析するものである。「修辞機能」と「脱文脈化程度」という、従来の相談談話分析にはない観点からその構造を確認する。『談話資料 日常生活のことば』(現代日本語研究会編)に収録され、「場面1」が「相談」である発話文を分析対象とする。先行研究では、ラジオ番組の医療相談や心理相談、また、インターネット上の相談コーナーともいえる Q&A サイト Yahoo!知恵袋などの談話構造の分析が行われてきたが、日常的な相談場面の分析はまだあまり行われていない。日常の生活における相談場面における談話構造を明らかにすることを検討する。

1. はじめに

相談の談話構造にかかわる先行研究に、ラジオ番組の医療相談、心理相談の談話型の解明(鈴木 2002a, 2002b)や、インターネット上の Yahoo!知恵袋の情報要求モデルの提案(田中 2009, 2010b)や情報構造の分析(田中 2010a)などがある。これらの談話構造分析では、佐久間(1987)の「話段」の単位によって、ザトラウスキー(1993)の発話機能が使用されることが多い。鈴木(2002a)は、ラジオの相談について、「相談内容確認」「回答」「回答確認」の3つの小話段が認定できるとしている。日々の暮らしにおける様々な形態の活動の様子を示す『会話行動調査』(小磯他 2016)によると、日常会話の「形式」は、「雑談」が全体の60%強を占め、ついで「用談・相談」が30%強であることが明らかになっている。上述のラジオ相談は、司会者がいて、専門家や知識を持つ回答者が回答し、時間が決まっている、という特徴がある。ラジオ相談やインターネットの Q&A サイトも一つのコミュニケーションの形ではあるが、より自然な会話における相談談話の解明も求められるところだろう。そこで本稿では、現在使用できる日常談話の資料として、現代日本語研究会(2016)に所収されている日常会話の相談談話を分析する。

本稿では、修辞機能と脱文脈化の観点から、相談の談話構造を明らかにすることを試みる。分析には、選択体系機能言語理論の枠組みの談話分析手法である、修辞ユニット分析 (Rhetorical Unit Analysis, 以下 RUA) による修辞機能と脱文脈化程度の認定を用いる¹。以下、2.で分析方法を述べ、3.で分析結果の報告と考察を行い、4.でまとめと今後の課題について述べる。

† yayoi@ninjal.ac.jp

¹ 各種認定及び用語は原則として佐野(2010a)、佐野・小磯(2011)に依った。

2. 分析方法

2. 1 分析対象

本稿では、『談話資料 日常生活のことば』（現代日本語研究会編）に収録され、「場面1」が「相談」，「場所」が「外出先」である発話文1,342件を分析対象とする。なお本資料には「場所」が「自宅」の「相談」（発話文239件）も含まれているが，協力者1名による1つの場面のみであるため，今回は分析の対象に含まないこととした。分析対象である1,342件の相談内容（場面2）と会話人数，親疎関係と発話文数を表1に示す。「相談内容」（場面2）は，現代日本語研究会(2016:8-11)に記載されているものである。なお，以下本稿ではそれぞれの相談談話を，「美容院」「補聴器」「衣裳」「裂き織り」「アルバイト」と省略する。

表1 分析対象—相談内容ごとの発話文数—

相談内容（場面2）	会話人数	親疎関係と発話文数				
		本人	疎	親	不明	小計
美容院でパーマをかける前にヘアスタイルについて美容師に相談	2	99	132	0	0	231
補聴器店で家族の補聴器について店員と相談・購入	2	67	108	0	0	175
娘の通う舞の稽古場で，発表会の衣裳について先生，年配の娘の愛弟子と雑談をまじえての相談	4	159	184	0	1	344
師事する裂き織り教室の先生と住所スタンプの作成や布の販売について雑談をまじえて相談	2	247	0	209	0	456
喫茶店で，経営する居酒屋のアルバイトの女性から，新しく店を開くことについて相談を受ける	3	84	2	50	0	136
発話文数総計						1,342

2. 2 分析方法

RUA は，選択体系機能言語理論において用いられる談話分析手法のひとつで，バフチンの chronotope の概念(1981)である空間と時間の融合が言語テキストにどのように示されているかを知り，脱文脈化言語 (de-contextualised language) ・文脈化言語 (contextualised language) の相違を捉える枠組みとして知られている(Cloran, 1994, 1999, 2010)。英語母子会話の分析の他，学校における教師と生徒の説明的な談話の様相が示され(Cloran 1999, 2010)，佐野・小磯(2011)によって日本語への適用が検討され，英語と日本語の言語の違いに関わる修正が加えられている。日本語の研究では，作文指導への活用(佐野 2010)や，インターネット上の Q&A サイトの談話構造(田中 2011)やクチコミサイトの分析(田中 2013a, 2013b)が行われている。テキストの意味単位を特定するための手法(佐野 2010b)だが，その過程において発話機能(speech function)，中核要素(central entity)，現象定位(event orientation)の3つをメッセージ単位で認定することで，修辞機能(rhetorical function)の種類を特定し，その結果として脱文脈化の程度(degree of de-contextualisation)を知ることができる。メッセージは，原則として節を最小単位として表わされるものと捉える。以下，RUA の分析方法について概説する²。

² 詳細は佐野(2010a)，佐野・小磯(2011)を参照されたい。

2. 3 メッセージの認定

まず、分析対象をメッセージ単位に分割(segment)する。原則として節だが、埋め込み節はメッセージとして扱わない。メッセージの種類を図1に示す。主部や述部が省略されていると考えられる場合には、補足してメッセージへの分割、統合を行う。対話をデータとする場合、共話のために分割された行を統合して1つのメッセージと認定する場合もある。RUAでは、「位置づけ」は認定対象外、「自由」と「拘束;形式的従属」を認定対象とする。「拘束;意味的従属」は従属するメッセージ(節)とともに、認定する。表2に「美容院」の一部の発話と、メッセージのセグメント、種類、およびRUA認定対象メッセージ数を示す。

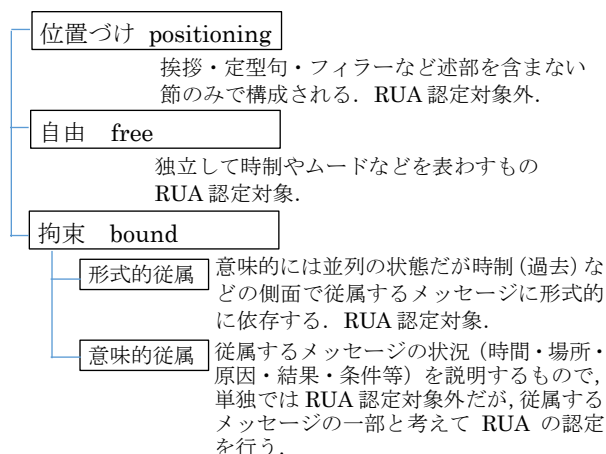


図1 メッセージの種類

表2 メッセージの認定例(「美容院」データの一部)

発話者	発話文番号	発話	メッセージのセグメント	メッセージの種類	認定対象数
B20f	35	<沈黙7秒>おしゃれっぽい感じにするんだったら、もう断然デジタルパーマのほうがいいんですが、エアウエーブだとー、かわいいんですよ、癖毛(げ)に近いような感じで、なっ	a. おしゃれっぽい感じにするんだったら b. もう断然デジタルパーマのほうがいいんですが、 c. エアウエーブだとー、 d. かわいいんですよ、 e. 癖毛に近いような感じで、なっ	a. 「拘束;意味的従属」 b. 「拘束;形式的従属」 c. 「拘束;意味的従属」 d. 「自由」 e. 「拘束;意味的従属」	2
B20f	36	<沈黙10秒>【ヘアスタイルの雑誌を眺めながら】こういう、ちょっとこう、長い{はい[A30f]}感じとかだとエアウエーブでも{うーんうんうん[A30f]}いいかなと思うんですけどー。	a. こうい、ちょっとこう、長い感じとかだと{はい[A30f]} b. エアウエーブでもいいかなと思うんですけどー。{うーんうんうん[A30f]}	a. 「拘束;意味的従属」 {「位置づけ」} b. 「自由」 {「位置づけ」}	1
A30f	37	<沈黙10秒>もうちょっとウエーブをかけたいんですけど。	もうちょっとウエーブをかけたいんですけど。	「自由」	1
B20f	38	こういう記事に載ってるね、大きめでもヒッカミ#(=意味不明)みたいな雰囲気(ふいんき)にするんだとー、デジタルパーマのほうがいいかなあと思う★んですよ。	a. こういう記事に載ってるね、大きめでもヒッカミみたいな雰囲気にするんだとー、 b. デジタルパーマのほうがいいかなあと思うんですよ。	a. 「拘束;意味的従属」 b. 「自由」	1
A30f	39	→あ、そうで←すか=。	→あ、そうで←すか=。	「位置づけ」	0
B20f	40	=うん {うーんうん[A30f]}。	=うん {うーんうん[A30f]}。	「位置づけ」 {「位置づけ」}	0

発話文番号35では、bとdの2つが認定対象メッセージとなる。a,c,eは、bあるいはdとともに認定を行う。なお、「～と言った」「～と思った」「～と考える」「～だと聞いた」など、話し手自身や他者による発話や考えが発話の中に引用されていると考えられる場合

は、引用された部分 (被投射節 prefaced) を分析対象とする³。発話文番号 36 の b 「エアウエーブでもいいかな」 や、 38b 「デジタルパーマのほうがいいかなあ」 が、該当する。また、発話文番号 39 と 40 は、「位置づけ」として分類され、この後の RUA の認定対象には含まれない。もともとデータに含まれている{ }で囲まれた他者のあいづちなども「位置づけ」である。このように、メッセージの種類を確認した結果、分析対象メッセージ数は、表 3 のとおりとなった。

表 3 相談内容ごとのメッセージ数

相談内容	メッセージ数
美容院	157
補聴器	123
衣裳	209
裂き織り	222
アルバイト	93
計	804

2. 4 発話機能の認定

発話機能は、「提言 proposal」か「命題 proposition」に分類する (Halliday and Matthiessen 2004)。「提言」は表 4 の(a)の品物・行為の交換 (提供あるいは命令) に関するメッセージ、「命題」は(b)の情報の交換 (陳述あるいは質問) に関するメッセージが該当する。

表 4 発話機能 (Halliday & Matthiessen 2004: 107)

role in exchange	commodity exchanged	
	(a)goods & service	(b)information
(i)giving	“offer” would you like this teapot?	“statement” he’s giving her the teapot
(ii)demanding	“command” give me that teapot!	“question” what is he giving her?

提言

命題

発話機能が「提言」のメッセージは、この段階で、修辞機能は「行動」、脱文脈化指数は [1]と認定される。「=あー、貸してくだ★さい。」(「衣裳」発話文番号 232)「→じゃ、じゃ←、そ、そちらで発注 {はい [B20f]} かけていただいて。」(「補聴器」発話文番号 142) など、相手に行為を要求するメッセージが「提言」である。発話機能が「命題」であるメッセージについて、この後、中核要素と現象定位の認定を行い、修辞機能と脱文脈化指数を確認する。前掲の表 2 の RUA 認定対象メッセージはすべて情報の交換で、発話機能は「命題」である。

2. 5 中核要素の認定

中核要素は、コミュニケーションの当事者とメッセージの内容との空間的距離を示す。メッセージの中心となるものがコミュニケーションの場面に存在するか否かによって特定する。中核要素の分類を図 2 に示す。基本的には主語によって表現されるが、照応など前後のメッセージを用いて判断する場合もある。また、「こ

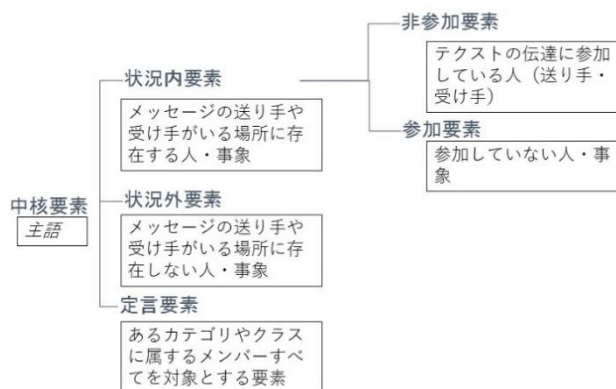


図 2 中核要素の分類 (佐野・小磯 2011)

³ 投射については佐野(2010a)を参照のこと。

のカレーは野菜がたっぷりだ」のように、述部「野菜がたっぷりだ」が「このカレー」の性質を表している場合には、「このカレー」を中核要素と認定する。

2.6 現象定位の認定

現象定位は、メッセージによって表現されている出来事がいつ起こったか、これから起こるのかなどを、メッセージが伝達されている時（Time of speaking）を基準とした時間的な位置を特定して、時間的距離を示す要素である。副詞や述部から判断する。現象定位の分類を図3に示す。

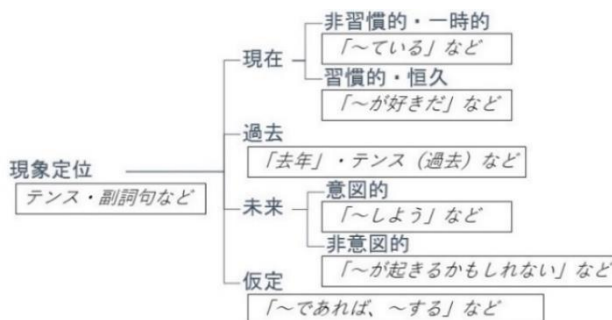


図3 現象定位の分類 (佐野・小磯 2011)

2.7 修辞機能の特定と脱文脈化指数の確認

発話機能と中核要素と現象定位の組み合わせによって、表5に示したように、修辞機能が特定され、脱文脈化指数を確認できる。

表5 発話行為・中核要素・現象定位からの認定

中核要素		状況		参加		発話機能						
						命題						
						現象定位						
[1]行動		[2]実況		現在		過去	未来		仮定			
				非習慣的・一時的	習慣的・恒久		意図	非意図				
中核要素	状況	参加	非参加	[1]行動	[2]実況	[7]自己記述	[3]状況内回想	[4]計画	[6]状況内推測			
	状況外	n/a	[9]報告	[8]観測	[10]状況外回想	[5]状況内予想	[11]予測	[12]推量				
	定言	n/a	[13]説明	[14]一般化	[10]状況外回想	[11]予測	[12]推量	[13]説明	[14]一般化			

「n/a」は該当なし／背景が灰色の部分が修辞機能の種類/[]内は脱文脈化指数



図4 修辞機能と脱文脈化程度

脱文脈化指数とは、中核要素の here（発話地点との空間的な距離）の程度と現象定位の now（発話時点との時間的な距離）の程度によって、近いものから遠いものまで修辞機能を線上に示した際の順序の指数で、1から14までである（図4）。脱文脈化指数の数値が大きいものほど脱文脈化の程度が高く一般的・汎用的で、小さいものほど脱文脈化の程度が低く個人的・限定的であることを示す。

表2で示した「美容院」データに RUA 認定したものを表7に示す。右に「→」の後に示した脱文脈化指数と修辞機能を見ると、脱文脈化指数は、13→9→2→4→13、修辞機能は「説明」→「報告」→「実況」→「計画」→「説明」と展開している。脱文脈化程度が高く会話

参加者のいる場所と空間的・時間的に離れた話題から脱文脈化程度が低く会話参加者の身近な話題へ、そしてまた離れた話題へ、というように展開していることがわかる。

表 6 RUA 認定例

発話者	発話文番号	メッセージのセグメント	メッセージの種類	発話機能, 中核要素, 現象定位 →脱文脈化指数, 修辞機能
B20f	35	a. おしゃれっぽい感じにするんだったら b. もう断然デジタルパーマのほうがいいんですが、 c. エアウエーブだとー、 d. かわいいんですよ、 e. 癖毛に近いような感じで、なって。	a. 「拘束；意味的従属」 b. 「拘束；形式的従属」 c. 「拘束；意味的従属」 d. 「自由」 e. 「拘束；意味的従属」	命題, 状況外, 現在; 習慣的・恒久 →13. 説明 命題, 状況外, 現在; 非習慣・一時的 →9. 報告
B20f	36	a. こういふ、ちよつとこう、長い感じとかだと {はい [A30f]} b. エアウエーブでもいいかなと思うんですけどー。 {うーんうんうん [A30f]}	a. 「拘束；意味的従属」 {「位置づけ」} b. 「自由」 {「位置づけ」}	命題, 状況内; 参加, 現在; 非習慣・一時的 →2. 実況
A30f	37	もうちょっとウエーブをかけたいんですけど。	「自由」	命題, 状況内; 参加, 未来; 意図的 →4. 計画
B20f	38	a. こういう記事に載ってるね、大きめでもヒッカミみたいな雰囲気にするんだとー、 b. デジタルパーマのほうがいいかなあと思うんですよ。	a. 「拘束；意味的従属」 b. 「自由」	命題, 状況外, 現在; 習慣的・恒久 →13. 説明

3. 分析結果

図5に「美容院」談話で見られた修辞機能と脱文脈化指数の展開を示す。縦方向に談話の進行を配置し、横方向に脱文脈化程度を示した、左側ほど脱文脈化程度が低く時間的・空間的に会話当事者たちに近い「今・ここ」での修辞機能で、右側ほど脱文脈化程度が高く、会話の場面から時間的・空間的に遠い汎用的な修辞機能である。

ゆるい感じにパーマをかけたいという希望を客が述べる[4 計画]⁴ところから談話が始まる。次に美容師が、以前かけたパーマがかかっているか[2 実況]、以前いつパーマをかけたか[3 状況内回想]、普段巻いたりするかという習慣[7 自己記述]を確認する。【A】

次いで、デジタルパーマとエアウエーブというパーマの種類についての質問[9 報告]と解説[13 説明]、これからの手入れについての説明[8 観測][11 予測]が続く。【B】

また、過去にデジタルパーマをしたことがあるか[3 状況内回想]、髪に癖があるか[8 観測][2 実況]を確認しながら、パーマをどのようにかけるとどうなるのかを解説し[13 説明][状況内予想5]、毛質との関係からの提案をしている[2 実況][8 観測][5 状況内予想]。【C】

さらに、前に美容院に行ってからどのくらい時間がたっているか[3 状況内回想][9 報告]、具体的にどうパーマをかけるか[2 実況][11 予測][8 観測][4 計画]を相談し、決定している。

【D】

映像や説明がないため定かではないが、このあたりで、会話の内容から、パーマをかける作業に入っているのではないかと推測される。パーマ作業に入っているとすれば、この後の話題は、いわゆる雑談に分類できるものではないかと考える。

肌が弱いかどうかの確認[8 観測]や、しばらく美容院に行かなかった理由[3 状況内回想][8 観測][7 自己記述]、カラーリングをした後の一般的な話[9 報告][13 説明]、今後のカラーリ

⁴ []内に、脱文脈化指数と修辞機能を示す。

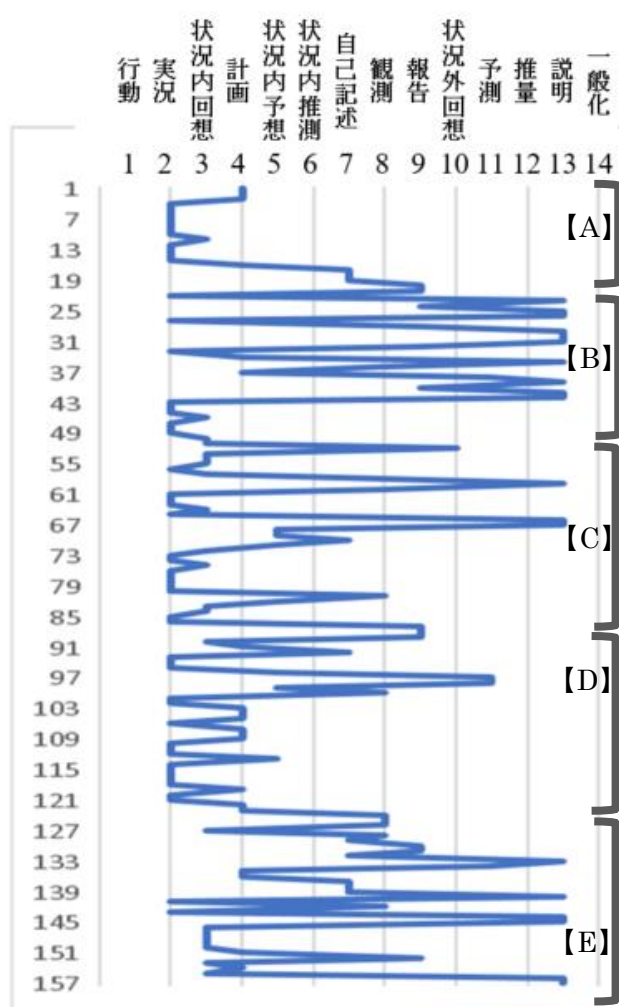


図 5 「美容院」の修辞機能・脱文脈化指数の展開

の間に[9 報告][10 状況外回想]が多くみられる。状況と希望を伝える際に、その場にはいない家族(中核要素が「状況外」)について語り、器材やカタログをみながら説明をする際に、過去の機種の話(中核要素が「状況外」)をしていることが[9 報告][10 状況外回想]の出現に影響している。購入場面における相談の場合、使用者本人用か否かによって修辞機能と脱文脈化の程度は変わってくるのがうかがえる。

「衣裳」は娘の発表会用の着物の柄や色について相談している。冒頭で相談者が希望[4 計画]や状況[2 実況]を述べ、その後に先生からのアドバイス[9 報告]などが提供される。途中で第三者の話題がしばらく続いたため、[9 報告]の連続が見られる。

「裂き織り」は、おおまかには、前半はスタンプを作成する提案について、後半はフリーマーケットに布を出店することについてのやり取りであるが、様々な話題がところどころに入っており、他の相談とは展開が異なるようである。手元にある布(中核要素が「状況内; 非参加」)の扱いについてやりとりが続き、脱文脈化の程度の低い数値がまとまって表れている。

「アルバイト」は、お店をまかせたいといわれた相談者(アルバイト)から相談される場面である。冒頭で、ワインを注文した後に、相談があることを伝え [2 実況]、その後経緯

ングの予定[4 計画], トリートメントの習慣[7 自己記述], トリートメントの勧め[13 説明], 以前ショートカットにした失敗[3 状況内回想], 今後ショートカットにするか[4 計画], 長い方が楽だという一般論[13 説明]で終わっている。【E】

美容院における相談談話の修辞機能は、[4 計画][2 実況]から始まり、[7 自己記述][9 報告][13 説明]と続き、全体的に、「実況」と「説明」の間で大きく揺れながら会話が進んでいることがわかる。客の要求や希望に関する問や回答と、専門家側の専門知識の提示、という大きな流れがあり、専門家と客の関係から生じる修辞機能の展開である可能性がうかがえる。

次に、「補聴器」「衣裳」「裂き織り」「アルバイト」の談話展開を図6に示し、確認する。

「補聴器」は、来店した本人でなく、施設等に入居中の家族が使用する機材を購入する場面である。カタログを見ながらの商品の選択[2 実況]と補聴器使用者の習慣[13 説明]

を伝え [9 報告] 予定を話し [4 計画] たのち、相談相手からの賛成と様々なアドバイスが具体的な話 [2 実況] [3 状況内回想] や一般的な励まし [9 報告] [13 説明] などが伝えられている。

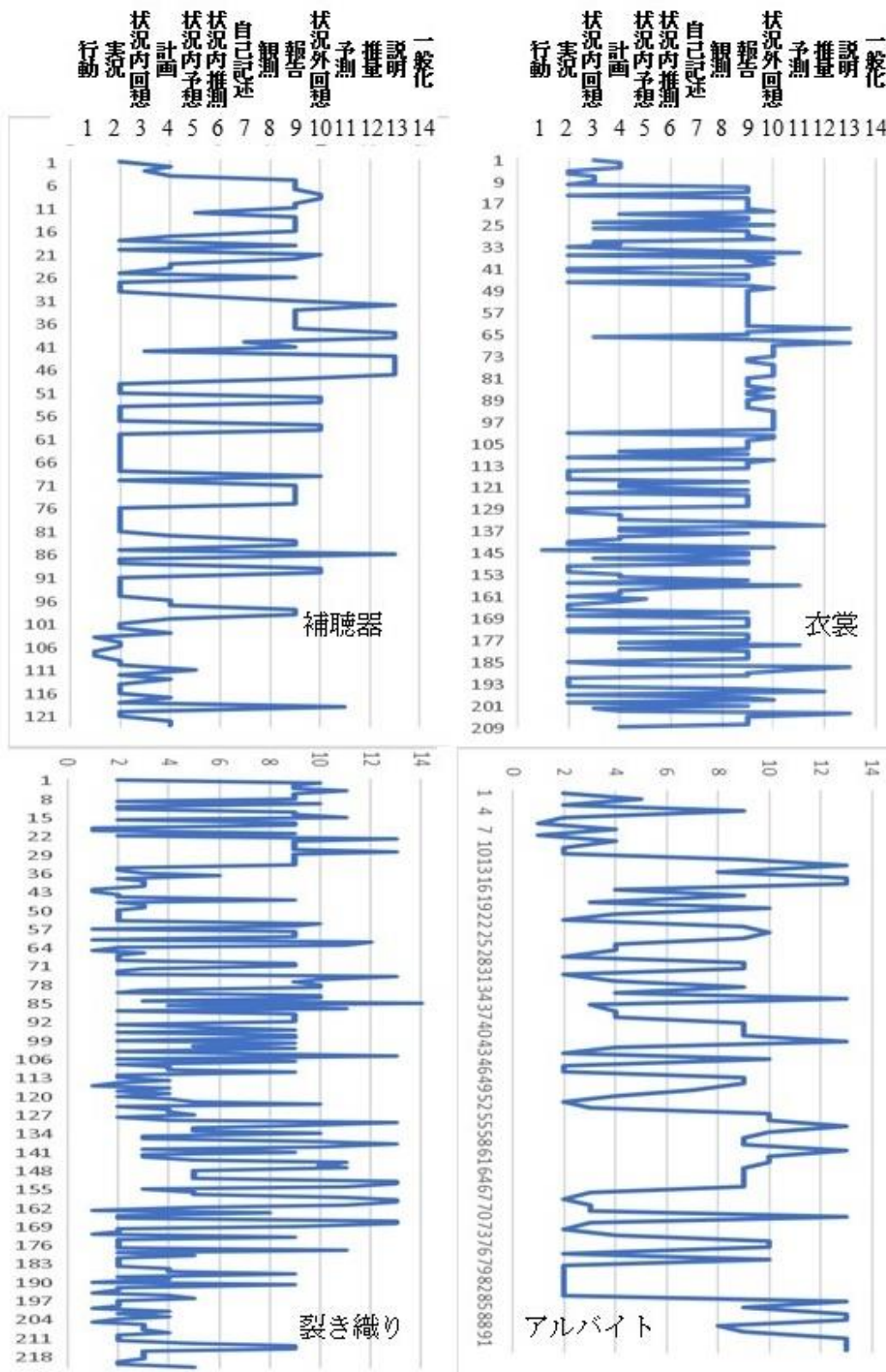


図 6 補聴器, 衣裳, 裂き織り, アルバイトにおける展開

相談には大きく分けて「と」相談と、「に」相談があるといえる(柏崎他 1997)。「と」相談は主に会話参加者同士が話し合っ何かを決める場合が該当し、「に」相談は専門家や知識のある人の意見を聞く場合が該当する。「美容院」は美容師に、「補聴器」は店員に、「衣裳」は先生などに、「アルバイト」はアルバイト女性が本人(調査協力者)に、相談する。一方、「裂き織り」は、本人が先生と相談して決めていく「と」相談であったといえるだろう。また、鈴木(2002, 2003)で分析されたラジオ番組の医療相談、心理相談は、ともに言葉(音声)で回答をもらう状況であるが、本稿で分析した相談談話のうち、「美容院」ではパーマという技術、「補聴器」では補聴器という製品にそれぞれ対価を支払うという点で、相談のゴールは言葉によるものだけではないという性質の違いがあるといえる。また、今回の分析対象の人間関係(親疎)は、「美容院」「補聴器」「衣裳」が疎、「裂き織り」「アルバイト」は親であった。人間関係が親であれば、雑談的なメッセージが多くなることは容易に想像がつく。分析の結果、技術やサービス・商品の入手を目的とした「相談」では、客側の希望・要求や背景などの情報が提供されるための脱文脈化程度の低い修辞機能と、専門家側の知識等を提供したり確認したりするための脱文脈化程度の高い修辞機能との間で揺れながら、必要に応じてその間の修辞機能が用いられる、という基本的な構造がうかがえた。

4. まとめと今後の課題

本稿では、選択体系機能言語理論における談話分析手法の一つである修辞ユニット分析(Rhetorical Unit Analysis)によって、相談の談話構造を修辞機能と脱文脈化の観点から明らかにすることを試みた。技術やサービス・商品を求める「相談」の場合、相談者の希望・要求、背景についての情報を提供する脱文脈化程度の低い修辞機能と、回答者の知識等の提供や確認のための脱文脈化程度の高い修辞機能との間で揺れながら、必要に応じてその間の修辞機能が用いられる、という基本的な構造がうかがえた。同じ「相談」という場面でも、目的(ゴール)や会話者の親疎、「と」相談か「に」相談か、などの性質によって、その構造は変異がある。その意味では今回のは性質が様々であったといえる。現在、国立国語研究所では『日本語日常会話コーパス』の構築が進められている(小磯他 2017, 田中他 2017)。今後さらに「相談」の談話を分析して、本研究によって得られた基本談話構造の検証を行うとともに、その他の日常会話場面についても、談話構造の分析を行っていきたい。

謝 辞

本研究は科研費基盤(C)「修辞機能」と「脱文脈化程度」の観点からのテキスト分析手法確立と自動化の検討(15K02535)および国立国語研究所共同研究プロジェクト「大規模日常会話コーパスに基づく話し言葉の多角的研究」の助成を受けて実施した。

文 献

柏崎雅世・足立さゆり・福岡理恵子(1997)「インフォーマルな「と」相談における提案の分析」日本語教育, 92, pp.60-71, 日本語教育学会.
現代日本語研究会 遠藤織枝・小林美恵子・佐竹久仁子・高橋美奈子編(2016)『談話資料 日常生活のことば』ひつじ書房.

- 小磯花絵・居關友里子・臼田泰如・柏野和佳子・川端良子・田中弥生・伝康晴・西川賢哉 (2017) 『『日本語日常会話コーパス』の構築』『言語処理学会第23回年次大会(NLP2017) 予稿集』
- 小磯花絵・土屋智行・渡部涼子・横森大輔・相澤正夫・伝康晴(2016)「均衡会話コーパス設計のための一日の会話行動に関する基礎調査」国立国語研究所論集 10, pp.85-106.
- 佐久間まゆみ(1987)「文段認定の一基準 (I) —提題表現の統括—」文藝言語研究 言語篇, 11, 筑波大学 文芸・言語学系.
- 佐野大樹 (2010a) 「日本語における修辞ユニット分析の方法と手順 ver0.1.1—選択体系機能言語理論 (システムミック理論) における談話分析— (修辞機能編)」. <http://researchmap.jp/systemists/資料公開/> 閲覧日 2016年11月30日
- (2010b) 「選択体系機能言語理論を基底とする 特定目的のための作文指導方法について —修辞ユニットの概念から見たテキストの専門性—」専門日本語教育研究, 12, pp.19-26.
- 佐野大樹・小磯花絵 (2011) 「現代日本語書き言葉における修辞ユニット分析の適用性の検証—「書き言葉らしさ・話し言葉らしさ」と脱文脈化言語・文脈化言語の関係—」, 機能言語学研究, 6, pp.59-81, 日本機能言語学会.
- 鈴木香子 (2002a). 「ラジオの医療相談の談話の構造分析」早稲田大学日本語教育研究, 1, pp.117-130.
- (2002b). 「ラジオの心理相談の談話の構造分析」早稲田大学日本語教育研究, 3, pp.57-69.
- (2007). 『機能文型に基づく相談の談話の構造分析』早稲田大学日本語教育研究科博士論文 <https://dspace.wul.waseda.ac.jp/dspace/bitstream/2065/28804/3/Honbun-4605.pdf> 2016年1月28日アクセス
- 田中弥生 (2009). 「インターネットの知識検索サービスにおける談話構造の諸相 —Yahoo!知恵袋の情報要求モデルの検討—」ことばと人間, 7, pp.57-68. 「言語と人間」研究会.
- (2010a) 「Q&A コミュニティの談話機能と構造—「Yahoo!知恵袋」を対象に—」特定領域研究「日本語コーパス」平成21年度公開ワークショップ (研究成果報告会) 予稿集, pp.55-62.
- (2010b). 「質問サイトにおける情報要求モデルと待遇コミュニケーション—「アットコスメ美容辞典」の談話機能・談話構造の分析から」待遇コミュニケーション, 7, pp.33-48. 待遇コミュニケーション学会.
- (2011). 「修辞ユニット分析を用いた Q&A サイトの質問と回答における修辞機能の展開の検討」社会言語科学会第28回大会発表論文集, pp.226-229.
- (2013a). 「クチコミサイトにおける修辞機能の商品評価の高低による違い —修辞ユニット分析による検討—」機能言語学, 7, pp.59-74. 日本機能言語学会.
- (2013b). 「評価の高低によるクチコミサイト「アットコスメ」における談話構造の特徴 —修辞ユニット分析を用いて—」神奈川大学言語研究, 35, pp.1-23, 神奈川大学言語研究センター.
- 田中弥生・柏野和佳子・角田ゆかり・伝康晴・小磯花絵 (2017) 『『日本語日常会話コーパス』構築における会話収録方法』『言語処理学会第23回年次大会 (NLP2017) 予稿集』
- ポリー・ザトラウスキー (1993) 『日本語の談話の構造分析—勧誘のストラテジーの考察』くろしお出版.